

新聞の役割多角的に紹介

静岡文化
芸術大で 本紙と中日共同授業開講

静岡新聞社と中日新聞社による静岡文化芸術大の共同連携授業「メディアとしての新聞／社」が6日、浜松市中区の同大で開講した。両社が連携して大規模な授業を行うのは初めて。来年2月までの全15回で、両社の社員や記者が学生に向けて講義する。

授業は新型コロナウイルスの影響で、前期から後期に延期となっていた。初回は両社の担当者が一若い人の新聞離れに危機感を感じている。新聞の果たすべき役割や記事の信頼性をさまざまな角度から考えていく。「互い」



どあいさつした。講義ではジャーナリズム論や新聞社の事

業、ビジネスモデルなどのテーマを扱う。両社の編集局長によるトークセッションも予定している。同大の加藤裕治教授(メディア論)は学生に新聞創刊の歴史や文化事業など紙面発行以外の側面を紹介し、「社会の中での新聞社の位置づけを幅広く学んでほしい」と呼び掛けた。

文化政策学部2年の勾坂朱里さん(20)は「メディア業界への就職を視野に受講した。新聞社の社員や記者がどのような仕事をしているのか知りたい」と話した。

学生に語りかける静岡新聞社と中日新聞社の担当者ら116日午後、浜松市中区の静岡文化芸術大